

株式会社産業革新投資機構 記者会見

「JICのスタートアップ支援」

2022年12月16日（金） 13:00～14:00

【出席者】 株式会社産業革新投資機構

代表取締役社長CEO 横尾 敬介

取締役CIO 久村 俊幸

JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社

(C) JIC. All Rights Reserved. 代表取締役社長CEO 鏑水 英樹

1. JICの経営理念と活動の柱	P. 3
2. 「スタートアップ育成5か年計画」を踏まえたJICのスタートアップ支援	P. 6
3. JICのファンド投資活動	P. 8
(1) JICの投資活動の現況	P. 9
(2) VGIが設立するファンドについて	P.14
(3) 投資分野：ユニコーン創出 /Go Global	P.26
4. Appendix :	P.29
資料1 市場動向	P. 30
資料2 JICの投資戦略	P. 35
資料3 政策課題（重点投資テーマ）	P. 41
資料4 スタートアップエコシステムの課題	P. 45
資料5 LP投資について	P. 49
資料6 JICの投資ファンド一覧	P. 52

1. JICの経営理念と活動の柱

JIC

- 株式会社 産業革新投資機構（JIC : Japan Investment Corporation）は、2018年9月、産業競争力強化法に基づき、オープンイノベーションを通じた産業競争力の強化と民間投資の拡大という政策目的の実現に寄与するべく、発足した投資会社です。
- JICは、傘下のファンドや民間ファンドへの投資を通じて、政策的に意義のある事業分野へのリスクマネーを供給します。

JICグループ



株式会社INCJ（設立:2018年9月）

既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足。産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的とした投資活動を行う。



JICベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社（設立:2020年7月）

ベンチャー・グロース投資活動により我が国のイノベーションを促進し国際競争力の向上に寄与。産業及び社会課題の解決を目指す。



JIC キャピタル株式会社（設立:2020年9月）

Society5.0実現に向けた新産業の創造、国際競争力強化に向けた事業再編の促進、デジタルトランスフォーメーション（DX）促進をはじめとした次世代社会基盤の構築に向けたリスクマネー供給を担う。

経営理念

オープンイノベーションによる企業の成長と競争力強化に対する資金供給を通じて、民間投資を促進するとともに、投資人材の育成等を行い、我が国の次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出します。

JICの活動の柱

- (1) オープンイノベーションによる企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネーの供給
- (2) 我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり

2. 「スタートアップ育成5か年計画」を踏まえた JICのスタートアップ支援

- **政府**において、「スタートアップ育成5か年計画」を策定、公表（11月28日）。スタートアップの起業加速、オープンイノベーションの推進に向け、JICに関しても、
 - ①今後の法改正によるJICの運用期限の2050年までの延長（現在の期限は2034年）
 - ②現状を上回る2倍程度の投資規模のスタートアップに投資するファンドの新設について、盛り込まれた。

今後の取組の方向性

- **JIC**としては、引き続き、7月に公表した**スタートアップ支援方針**に基づき、「ディープテック」、「プレシード・シード」、「グロース」、「ゴー・グローバル」などの分野を重点的に支援していく。その中で、
 - ①VGIに2000億円※の2号ファンドを組成し（1号ファンドは1200億円）、さらに400億円の別ファンドの組成を検討（オポチュニティファンド）。
※グロース:1700億円、ディープテック・ライフサイエンス:300億円
 - ②**国内VC、スタートアップと海外VCとの連携強化**等を目的とした海外VCへの出資
 - ③**2050年までの運用期限延長の方向性**も踏まえた、JICの組織・活動の在り方の検討※
※スタートアップ支援に加えて、オープンイノベーションによる企業の成長、競争力強化の観点で検討などの具体的な取組を進めていく。

3. JICのファンド投資活動

(1) JIC の投資活動の現況

①ファンドへの出資約束実績

- JICが、民間ファンド、グループ子会社2社（JIC VGI、JICC）が運用するファンドに対し、出資約束を行った実績は以下の通り。



JICの出資約束額（12月16日公表分まで）、USD=140円換算

民間のVC・PEファンド



ファンド数 : 24
出資約束総額 : 1,271億円

1号 : 1,200億円 (20年9月設定)
2号 : 2,000億円 (23年1月設定)

1号 : 2,000億円 (20年11月設定)
共同投資ファンド : 9,000億円 (22年10月変更決定)

戦略	地域	ファンド数	出資約束額
VC	国内	18	721億円
	海外	4 (*)	210億円
PE	国内	2	340億円

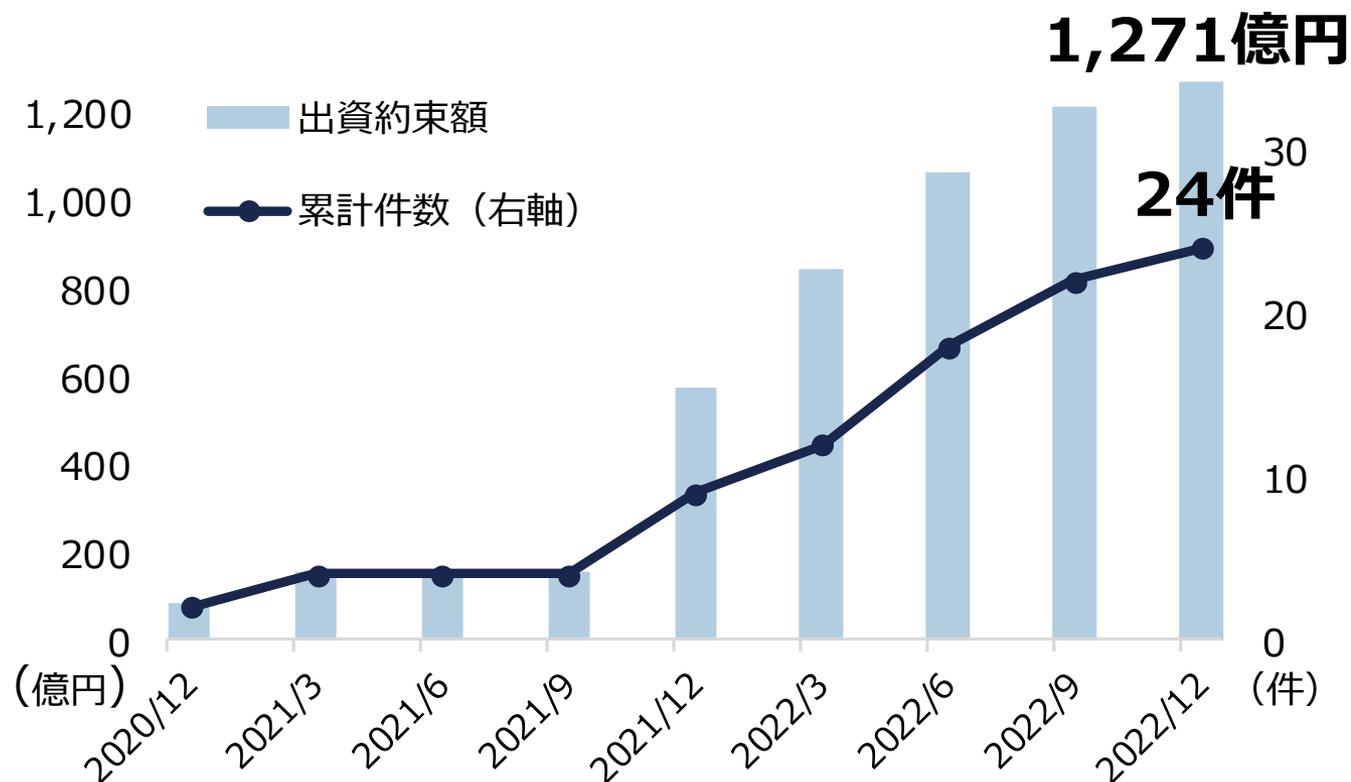
- 別途「オポチュニティファンド」を23年の春、400億円規模で設立すべく検討中

- 共同投資ファンドについて、20年の設立時に比べ、国内市場で大型案件が増加傾向にあり、JICとして取り組む政策的意義のある案件が含まれ得ることに対応すべく、増額

*主として海外のスタートアップに投資するファンドは、以下の観点から政策的な意義を認め、投資している。
 ✓ 国内事業会社等のオープンイノベーションの促進
 ✓ 日本発の創薬シーズを海外のエコシステムを活用し事業化

②民間ファンドへの出資約束ペース

- 2021年度、民間ファンドに投資するためのJICの体制を強化。
- 2021年度下期からは、**半年間に約10件のペースで出資約束**を実施。

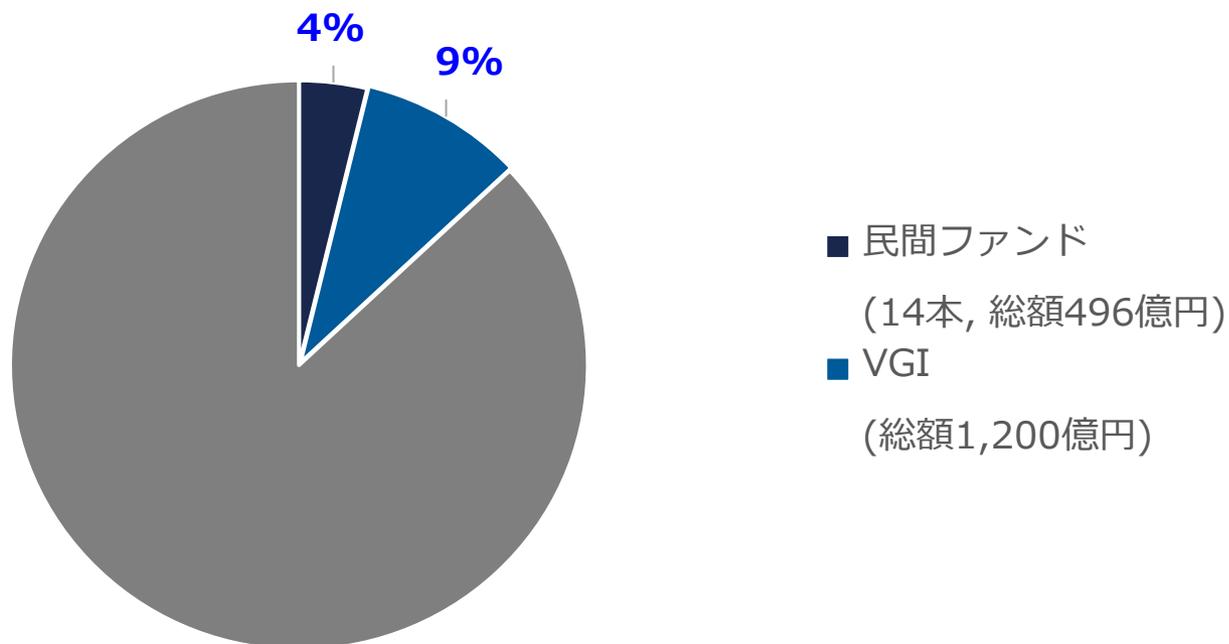


※ 米ドル建ファンドの出資約束金額は140円／ドルで換算

- 2020年から2022年10月までの3年弱で組成された国内VCファンド（ファンド募集の初回クローズが同期間に行われたもの）の組成額全体のうち、**JICによる国内VC向けの出資約束額は、約13%※。**

※国内VCファンドの組成総額を厳密に把握するのは難しい部分があり、あくまで推計値ベース

日本のVCファンド組成額全体に占めるJICの出資約束額の比率



※1：2020～2022年10月末の間に組成され、募集実績が判明している国内VCの組成総額(約1.3兆円)に対するJIC出資約束額の比率。

※2：民間ファンド14件は、JIC出資先国内VC18件の中から組成開始が20-22年のファンドを抽出。差となる4ファンドは、初回クローズが2019年以前のため上記には含めず。

④国内スタートアップへの投資額

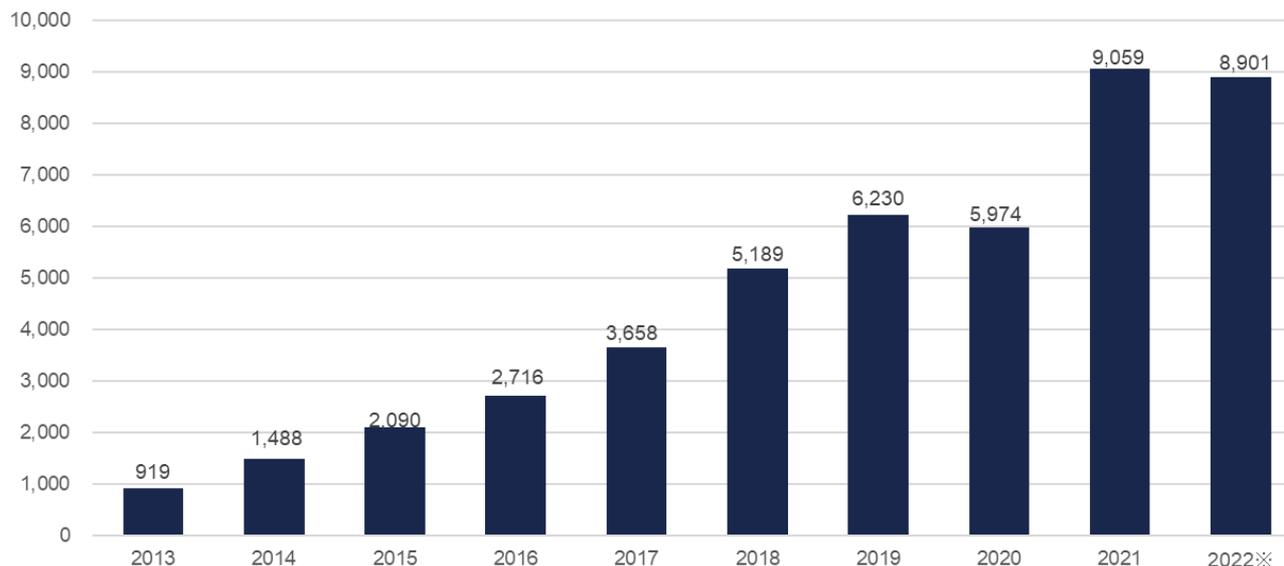
- JICの投資先ファンド（JIC VGI、民間VC）から、国内スタートアップに対する投資の実績については、以下の通り（2022年6月末現在）。

JIC投資先ファンド	投資先SU数	SU投資額	
		投資先ファンド全体	内、JIC持ち分
JIC VGI	39件	615億円	615億円
民間VC	211件	417億円	79億円

SU:スタートアップ

【参考】

日本 スタートアップ資金調達額（単位：億円）



※ 2022年は10月末迄。2013～2022年の調達金額は、INITIAL社の直近速報値（11月10日時点）による。（出所）INITIAL

(2) VGIが設立するファンドについて

JIC ベンチャー・ グロース・ファンド 2号 (VGF2)

- 1号ファンド（1,200億円）の後継ファンドとして、2,000億円の規模で、2023年1月に設立予定
- 本日12月16日公表

VGI オポチュニティ ファンド（仮称） (OPF)

- 新たに400億円規模で2023年春に設立予定
- 詳細は検討中だが、以下を見込む
- 投資分野：
 - VGF 1号、2号の投資案件に対する追加投資
 - リスクマネー供給者が限られている投資機会
 - ① セカンダリー
 - ② スタートアップのIPO後の資金調達
 - その他、市場環境の変化により生じる投資機会
- 詳細の公表は、2023年春を予定

ファンド コンセプト

- ファンドコンセプトは、**新産業育成（政策）とファンド収益の実現**
- アプローチは、課題解決ファンドとして、市場課題の解決に資する投資活動により、スタートアップ市場全体の拡大を狙いつつ、VGFの投資収益の最大化を図る好循環を実現するアプローチ

投資戦略

（市場課題）

- 国内市場の課題として以下を認識
 - ① **グロース領域のリスクマネー不足**
 - ② **ディープテック・ライフサイエンス分野のスタートアップが、アーリーステージからミドルステージに移行できていない**

（投資戦略）

- グロース投資によるスタートアップの大型化、投資収益の確立
 - 成長資金ニーズに応える大型ラウンドの組成を支援する投資による市場拡大
- ディープテック・ライフサイエンス分野のスタートアップへの投資、投資収益のアップサイドの獲得
 - PMF（Product Market Fit）を支援する投資による事業ステージへの移行

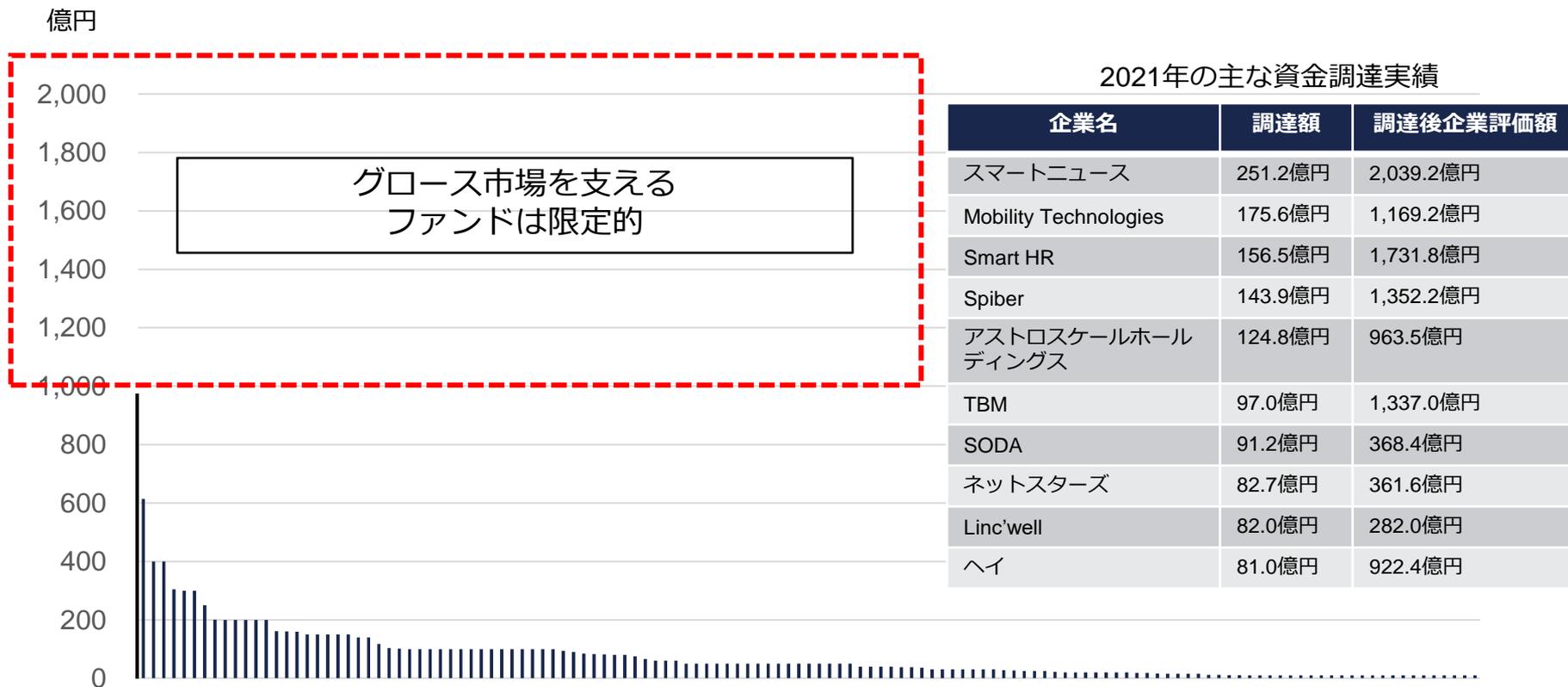
ファンド サイズ、 存続期間等

- VGF2号：2,000億円（GP:VGI、LP:JIC）
 - グロース枠とアーリー枠（ディープテック:150億円、ライフサイエンス:150億円）を設置
 - 存続期間：10年間（延長オプションあり）

	2号ファンド	1号ファンド
設立時期	2023年1月予定	2020年9月
ファンド規模	2,000億円	1,200億円
投資家	JIC、VGI役職員	JIC、VGI役職員
投資分野	グロス枠 シリーズB~ミドル、グロス、レイターステージ (クロスオーバー含む)	
	アーリー枠 (15%程度) ディープテック領域、 ライフサイエンス領域	ディープテック、ライフサイエンスのアーリーステージも投資対象
投資期間 (新規)	5年間	契約上5年、実質2年4カ月
存続期間	10年間 (延長あり)	12年間 (延長あり)

- 大型調達を行ったスタートアップが増加している一方で、大型ファンドは限定的。
- スタートアップの更なる成長のためには、グロースファンドによる支援が求められている。

主な資金調達先（需要）と国内ファンド組成規模2019 - 2021（供給）

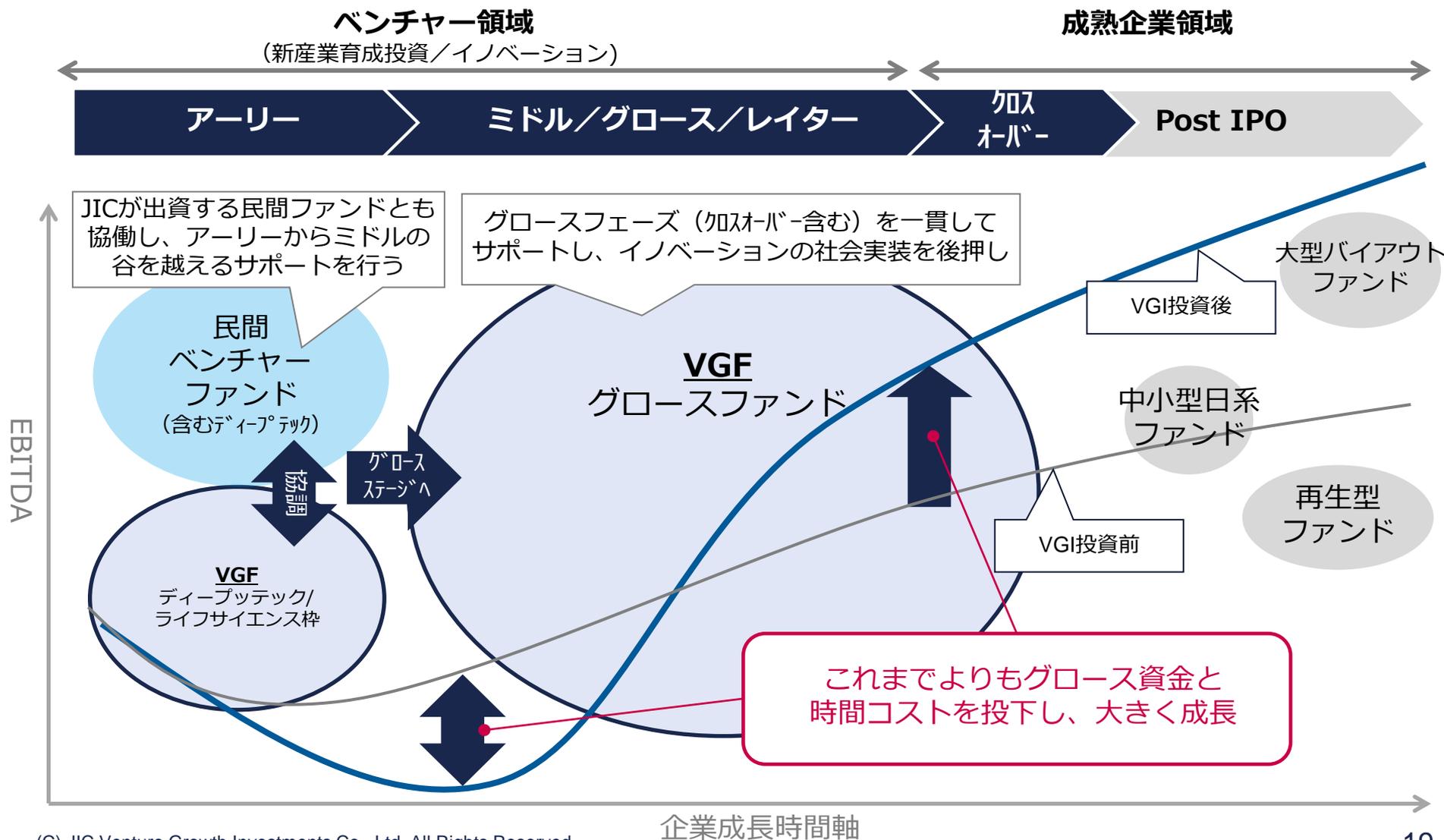


*JICVGIによるファンド組成を除く

VGI 2号ファンドのスコープ



- ・ グロースフェーズを一貫通貫して支え、ユニコーン創出に繋げるグロースファンド
- ・ ディープテック/ライフサイエンス領域について、民間VCと協調投資を行い、グロースファンドへ繋げる。



グロース投資

- グロース投資枠：1,700億円
- ステージ：ミドル以降
- 代表例：
 - 産業DX
 - データコアテック
 - プラットフォーム
 - フィンテック
 - ネットワーク・AI・IoT
 - D to C
 - 脱炭素化・新エネルギー

投資例 (VGF1)



スマートニュース
(データ・コアテック)

SmartNews



ディープテック投資

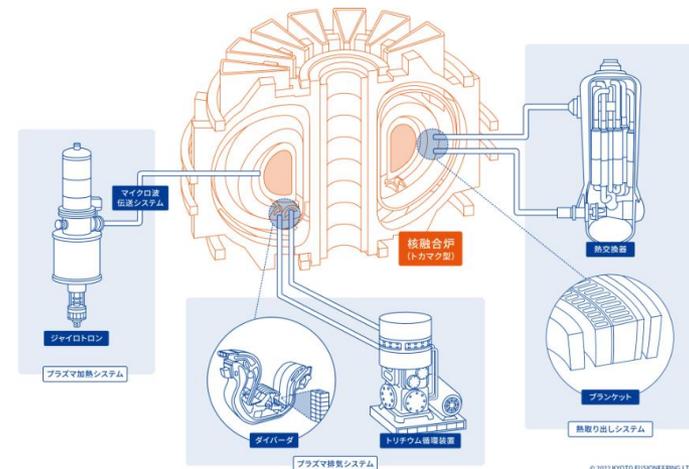
- ディープテック投資枠：150億円
- ステージ：アーリー

- 代表例：
 - 量子情報技術・高度情報処理技術
 - クライメートテック
 - 機能性素材・バイオ・合成生物学
 - ネットワークアルゴリズム
 - 革新的エンジニアリング
 - 新エネルギー・脱炭素化技術
 - 宇宙利用技術
 - ロボティクス など

投資例（VGF1）



京都フュージョニアリング
(核融合スタートアップ)



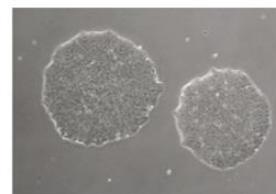
ライフサイエンス投資

- ライフサイエンス投資枠：150億円
- ステージ：アーリー
- 代表例：
 - 革新的創薬
 - AI創薬支援
 - メディカルデバイス
 - バイオインフォマティクス
 - デジタルヘルスケア など

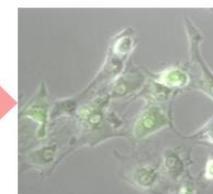
投資例 (VGF1)



クオリプス
(iPS細胞心筋シート)



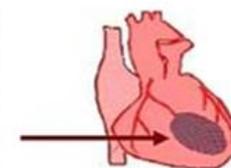
iPS細胞 (feeder free)



iPS由来心筋細胞
(拡大画像)



iPS心筋細胞シート



心筋シート移植

- VGF1号は、新産業育成（政策課題の解決）と収益性の実現を両立するポートフォリオ構築を進めた。
- 産業・社会インパクト、社会実装による産業課題の解決に関する仮説を持ち投資を実行。
- 投資実行後もESG、SDG'sを重視したモニタリングを実施。

データ・コアテック



プラットフォーム



Go global



産業DX



ネットワーク/IoT



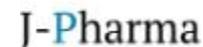
Fintech



D to C



ライセンス/創薬



Renewable Energy



レガシードラフ フォーメーション

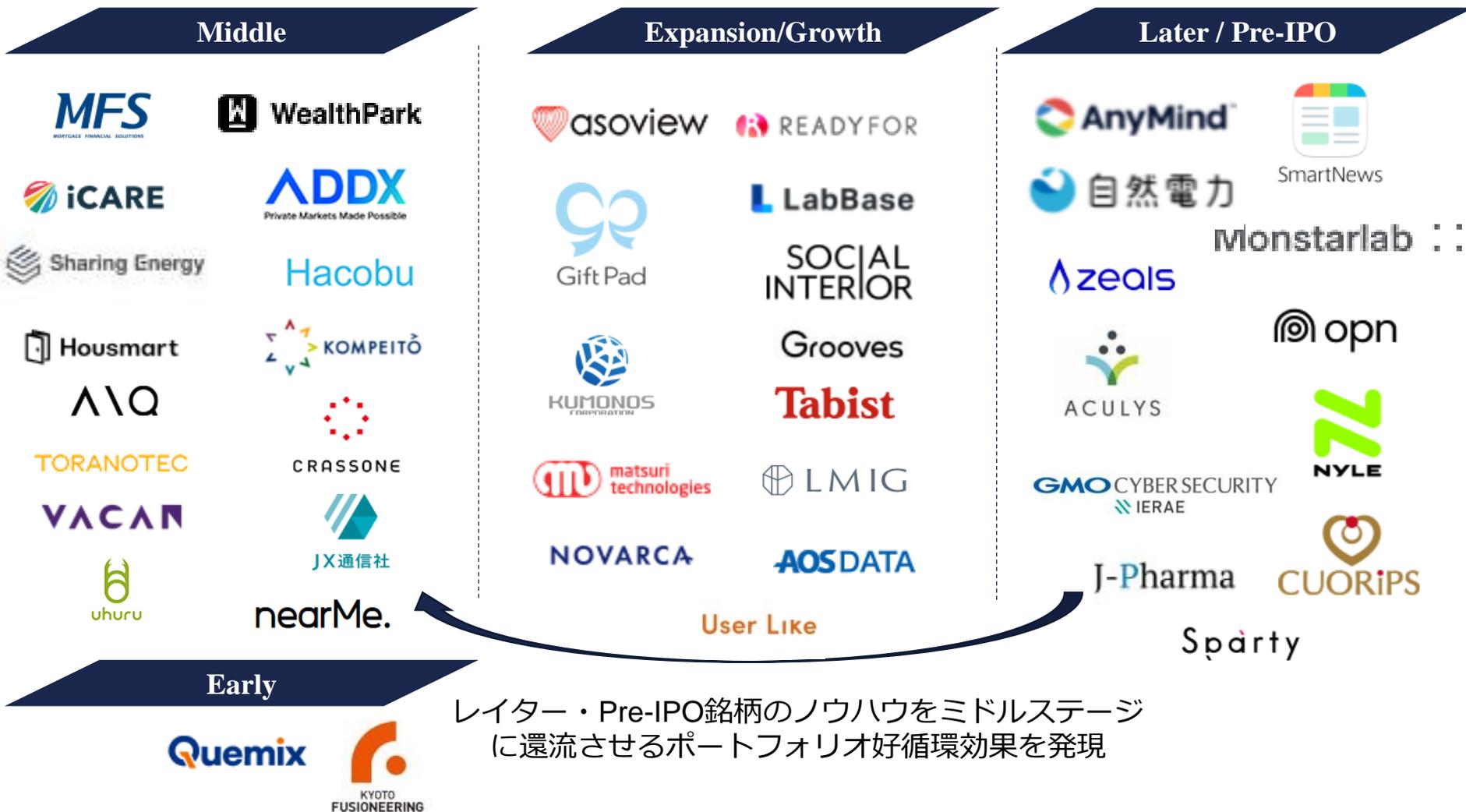


ディープテック





- レイター、Pre-IPOステージは資本政策の最適化により、上場後の更なる成長を支援。
- 産業構造の変革や産業ロードマップ仮説に基づく投資を行い、グロース・ステージへの成長支援と、産業インパクトを伴うユニコーン創出を狙う。



ファンド コンセプト

- ファンドコンセプトは、**市場課題対応とファンド収益の両立**
- アプローチは、顕在化してくる市場課題を捉え、課題解決と投資収益の両立を目指し、**市場エコシステムの発展に繋げる**ことで更なるファンド収益の最大化を図る
- 市場課題を捉えるオポチュニティファンドの特性を活かし、投資戦略を限定せず、新しい領域への投資が必要な場合は柔軟に対応

投資戦略

(市場環境)

- 以下の分野でリスクマネー供給者が少なくエコシステムの発展の制約の一つになっている
 - VC等が保有している案件を買い取るダイレクトセカンダリー
 - IPO後のスタートアップの増資資金

(投資戦略)

- ① VGF1号、VGF2号の投資先に対する追加投資
- ② ダイレクトセカンダリー
- ③ 上場済みスタートアップへの成長資金供給（第三者割当増資や私募証券による資金調達対応）
- ④ その他の新しい分野への投資については、JIC承認によりガイドライン追加で対応

ファンド サイズ等

- オポチュニティファンド規模： 400億円 （GP：VGI、LP：JIC）

(3) 投資分野：ユニコーン創出

サブテーマ：Go Global

～国内VC、スタートアップと海外VCとの連携強化等を目的とした海外VCへの出資

重点投資分野

ユニコーンの創出

		課題	JICの投資活動
リスク キャピタル	ユニコーンに至るまでの成長資金の不足 / メガベンチャーへの成長資金の不足	国内VCが小型→SUへの資金供給続かず	民間VCの大型化 【LP投資】
		グロース/クロスオーバーファンドの不在	VGFによるグロース投資 【VGI VGF】
		グローバルVCの不在	日本に投資する海外GP運営ファンド 【LP投資 (Go Global)】
		VC存続期限によるEXIT圧力	ダイレクトセカンダリー 【LP投資、VGI OPF】
		IPO後の成長資金の外部調達が困難	IPO後の成長資金供給 【VGI OPF】
エコ システム	グローバル市場をターゲットにしたスタートアップの不足	起業家、特にVCが投資先のグローバル展開を目指す意識の不足	グローバル視点・ネットワークを提供できる国内VC 【LP投資】
		グローバルを目指すための刺激の不足 (市場/機会、国際競争力、ロールモデル等)	日本に投資する海外GP運営ファンド 【LP投資 (Go Global)】
		グローバル展開支援ができるVCの不足	
		研究開発型：研究の延長に留まり、海外を含む外部リソースを組み合わせ、ダイナミックにビジネス化する人材・意欲の不足	海外エコシステムを活用できるVC 【LP投資 (Go Global)】

SU:スタートアップ、LP投資：民間VCへの出資約束、VGF：グロースファンド、OPF：オポチュニティファンド、LP投資 (Go Global)：海外GPが運用するVCへの出資約束

JICが検討対象と考える 日本に投資する海外GP運営ファンドの形態

グローバルVC

GPによる日本案件へのアプローチ

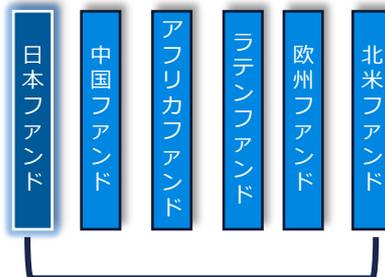
個別案件ベース

日本投資を検討するグローバルVC

- 本国に日本担当チーム組成
- 出張ベースで日本において活発な活動

(VCにとって意義が確認できれば将来的に)
日本オフィス設立

連邦形態VC



各地のGPが連携

グローバルグロース
ファンド

- 同じブランドの元で、各地で別々のGPがファンドを設立・運用（シード、アーリー）
- 各GPは投資先の育成、海外展開で協力
- ローカルGPが投資した案件を中心にグロースステージ案件に投資する同ブランドのグロースファンドも用意

海外GP運営の 日本ファンド

日本オフィスを持つ
海外PEファンドGP



- ① 日本でバイアウトファンドを運用している海外GPが、日本市場を対象にしたVCやグロースファンドを立ち上げ

JIC SWF

LP投資

日本ファンド

- ② 日本に投資しているSWF (Sovereign Wealth Fund)とJICが共同で日本ファンド設立

海外GPと共同運用するVC



- 日本のVCが、海外GPと提携して
ファンド設立
期待される海外GPの役割
- DDサポート
 - 起業家へのフィードバック
 - 海外展開支援
 - 海外での資金調達支援 等

凡例



左の色のボックスがJICが投資対象とするファンドを想定

GP General Partner。VCやバイアウトファンドの運用者

Appendix:

資料 1 市場動向

- 米国では、スタートアップ、ベンチャーキャピタルを取り巻く環境が悪化している。
- 世界的なトレンドは日本にも伝播しているが、現時点ではその影響は相対的に軽微。

	米国	日本
スタートアップ (SU)	<ul style="list-style-type: none">• SU資金調達の減速が継続 (金額、件数とも)• レイターズステージ中心にSUのバリュエーション調整が進行	<ul style="list-style-type: none">• SU資金調達額は全体として前年比横ばい。但し、レイターズステージの1件あたり資金調達額は前年比減• SUの大型調達案件への海外投資家の参加比率が低下
ベンチャーキャピタル (VC)	<ul style="list-style-type: none">• 投資ペースの減速はレイターズステージにおいて顕著。一部のVCはSUよりも相対的に割安な上場株への投資を開始• 新規ファンドレイズ額は全体として好調である一方、大型ファンドが選好されており、新興ファンドへの投資は減速• VCには未消化投資枠あり	<ul style="list-style-type: none">• 2022年（10月末時点の速報）の国内VCファンドレイズ額（※）は、前年同時期の水準にはやや及ばず <p>※ 今後の募集活動、データ反映により、2022年組成のVCファンドによるファンドレイズ額も上方修正される見通し。</p>

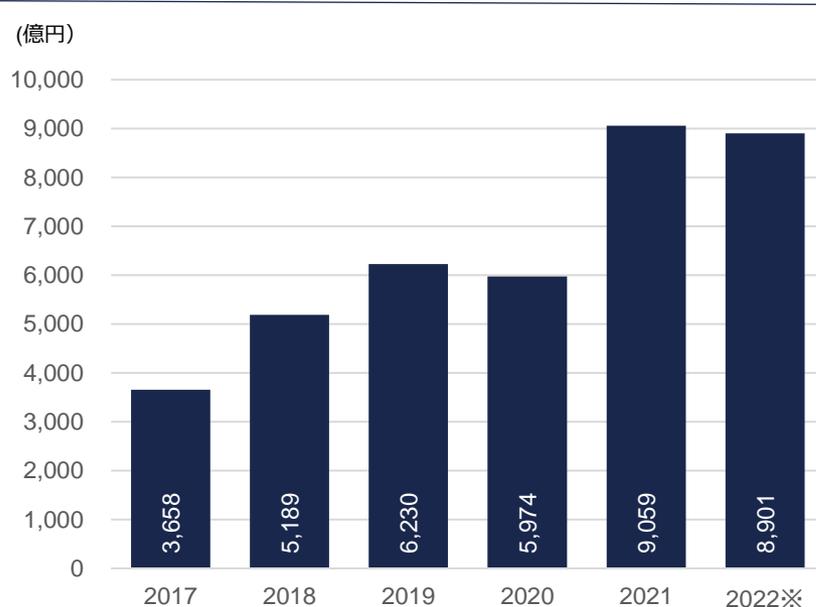
- 米国では、スタートアップの資金調達額は減少傾向。2021Q4にピークを付けてのち3四半期連続で減少中。COVID-19に伴う調整期（2020Q2-4並み）の水準。
- 日本では、2022年初来（1～10月）のスタートアップ資金調達額（速報）は、2021年通年と同水準に到達。

米国 スタートアップ資金調達額・件数



* 2022年は9月迄。
(出所) Pitchbook

日本 スタートアップ資金調達額



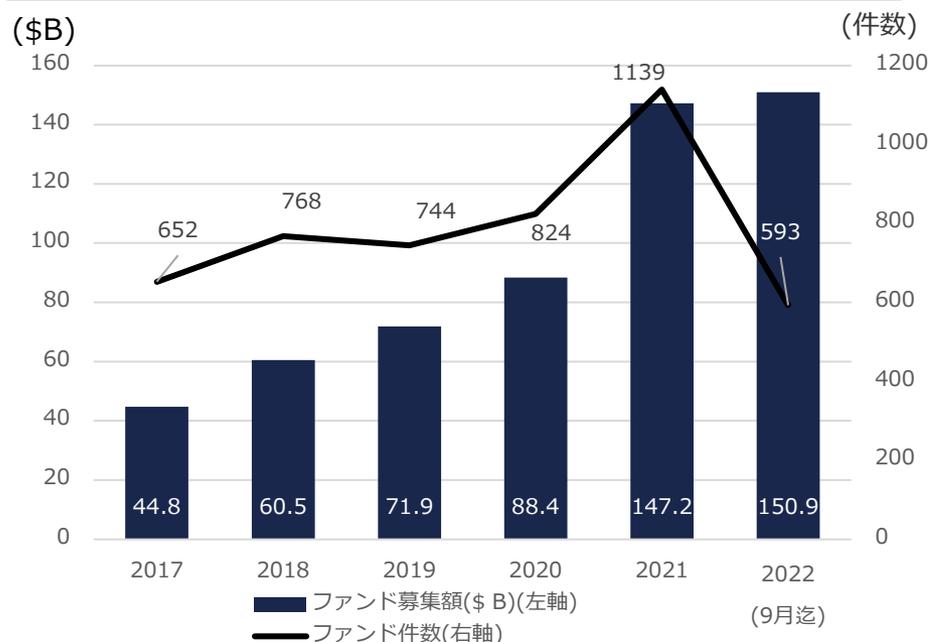
※ 2022年は10月末迄速報値。2013～2022年の調達金額は、INITIAL社の直近速報値（11月10日時点）による。

(出所) INITIAL

- 米国においては、全体としては**大型ファンドを中心に、ファンドレイズ金額は堅調**。
- 日本においては、2022年（10月末時点の速報）の国内VCファンドレイズ額は2021年同時期の水準にはやや及ばず。

米国

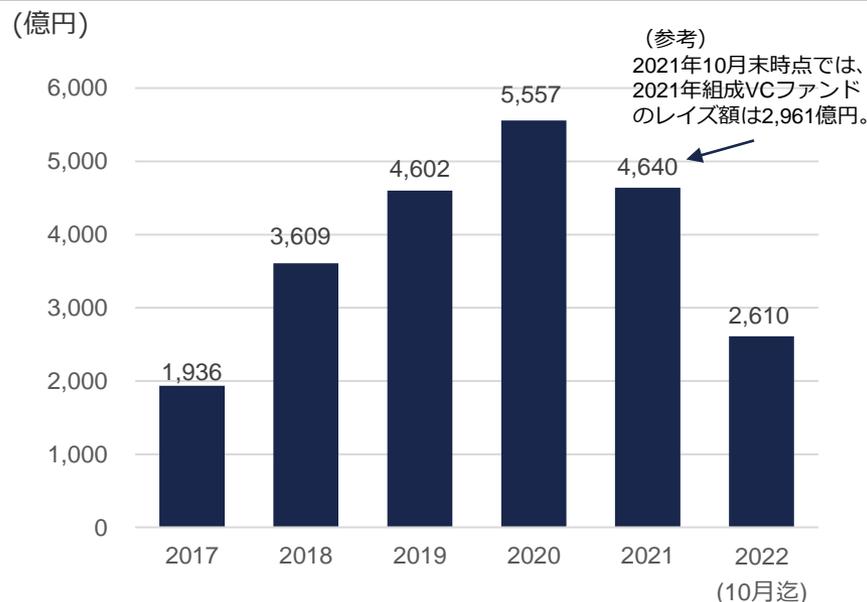
VCファンドレイズ金額・件数 (募集年別)



(出所)Pitchbook

日本

VCファンドレイズ金額 (組成年別)



(注) 2022は2022年10月末迄速報値、対象は国内のVCが設立したファンド
(出所) INITIAL

- 大型資金調達案件の多くに海外投資家が参画（20件中、14件に海外投資家が参画）。

2021年大型調達案件（Initial集計上位20件）

	企業名	概要	調達額 (億円/ シリーズ)	Post- Money	調達日	投資家 (青字：海外投資家, 赤字：VGI)
1	スマートニュース	ニュースアプリ「SmartNews」	251/F	2,039.2	10/29	Princeville Capital, Woodline Partners, ACA Investments, Green Co-Invest Investment, JICベンチャー・グローブス・インベストメント, Yamauchi-No.10 Family Office, SMBCVC
2	Mobility Technologies	タクシー配車アプリ「GO」	175/B	1,169.2	6/30	あいおいニッセイ同和損害保険
3	SmartHR	クラウド人事労務ソフト「SmartHR」	156/D	1,731.8	6/30	Light Street Capital, Sequoia Heritage, Sequoia Capital Global Equities, Arena Holdings Management LLC, Greyhound Capital, Whale Rock Capital Management LLC, シニフィアン
4	Spiber	構造タンパク質「Brewed Protein」	143/D	1,352.2	12/29	The Carlyle Group, Fidelity Int'l, Baillie Gifford & Co, 海外需要開拓支援機構, 東京センチュリー, 山形銀行, 佐竹化学機械工業, ユニバーサルマテリアルズインキュベーター
5	アストロスケールHD	スペースデブリ（宇宙ごみ）除去サービス	124/E	963.5	11/30	Seraphim Space Investment, DNCA Invest, Solaris ESG, Prelude Structured, Y's Investment, シニフィアン, 日本グローブスキャピタル, 環境エネルギー投資, アクサ生命保険, イノベーション・エンジン, オプス, Nomura Fintech Fund, 千葉道場, Yamauchi-No.10 Family Office,
6	TBM	紙・プラスチックの代替新素材「LIMEX」	97/F	1,337.0	6/30	SK Japan Investment, 武蔵塗料ホールディングス
7	SODA	スニーカー特価型CtoCマーケットプレイス	91/F	368.4	12/3	KREAM Corporation, Altos Ventures, SoftBank Ventures Asia, SB Investment Advisers (UK) Limited, ジャフコ, basepartners, コロプラネクスト, THE GUILD, i-nest capital, DIMENSION,
8	ネットスターズ	マルチQRコード決済サービス「StarPay」	82/E	316.6	3/31	Lun Partners Group, KKR, Susquehanna International, PowerCloud VC(中), NTTコム, 住友商事, 新生銀行, リージョナルマーケティング, SIGグループ
9	Linc'well	クリニック向けIT化支援	82/C	282.0	12/10	Bain Capital, LP, Pavilion, DCM, ニッセイ・キャピタル, インキュベイトファンド
10	ヘイ (現: STORES)	商売のデジタル化「STORESプラットフォーム」	81/E	922.4	7/9	(前回ラウンドには Bain Capital, Anatole Investment, Goldman Sachs, Paypalらが参加)
11	キャディ	製造業の受発注プラットフォーム「CADDi」	80/C	480.9	9/3	DCM, DST Global, Arena Holdings, Tybourne Capital Management, Minerva, ジャフコグループ, SBIインベストメント, WiL, グロービス, グローバル・ブレイン
12	ビットバンク	仮想通貨取引所「bitbank」	75/C	353.3	9/30	ミクシィ
13	アキュリスファーマ	神経・精神疾患領域の医薬品開発・販売	67/A	108.9	10/29	SB Investment Advisers (UK) Limited, Catalys Pacific. LLC, HBM Healthcare Investments, Global Founders Capital, 三井住友トラスト・インベストメント, ANRI
14	ビットキー	ID連携・認識と権利処理の「bitkey Platform」	66/E	695.5	11/30	サンケイビル, ダイキン工業, 日鉄興和不動産, 東京建物, スパークス・グループ, パナソニックホールディングス, SHIFT
15	HIKKY	VRコンテンツ開発エンジン「Vket Cloud」	65/A	645.0	10/29	NTTドコモ
16	INFORICH	スマホ充電器のシェアリング「Charge SPOT」	62.B	173.7	12/30	MRA Investments, SBSホールディングス, NEXTBLUE有限責任事業組合, BSPアセットマネジメント, ビー・アンド・イー・ディレクションズ
17	atama plus	AIで学習を個別最適化する「アタマプラス」	62/B	522.0	12/24	DCM, Temasek, Pavilion Capital, T Rowe Price, ジャフコグループ
18	オリツルセラピューティクス	iPS由来の再生医療等製品の事業化	62/A	104.6	9/30	武田薬品工業, 京都大学イノベーションキャピタル, 三菱UFJ銀行, SMBCVC, メディカルホールディングス, 三井住友ファイナンス&リース, 三井住友信託銀行, 日本ベンチャーキャピタル
19	Ispace	月着陸船、月調査用ローバー月面探査車の開発	56/C	756.3	10/22	AXIOM ASIA, エアバス・ベンチャーズ, インキュベイトファンド, イノベーション・エンジン, SBIインベストメント, HiJoJo Partners, アイザワ・インベストメント, あいざわアセットマネジメント
20	アトナーブ	微量分析装置を設計製造する科学機器	54/D	219.3	3/31	Celesta Capital, Banner Industries, Boscolo Interest, ATIK, Lucas Venture, Black Diamond Ventures, 古河電気工業, JPインベストメント

日本の大型調達案件 2022年（10月迄）



- 大型調達上位20件への海外投資家の参画は減少（21年：14件→22年：8件）。

2022年(1~10月)大型調達案件（Initial集計上位20件）

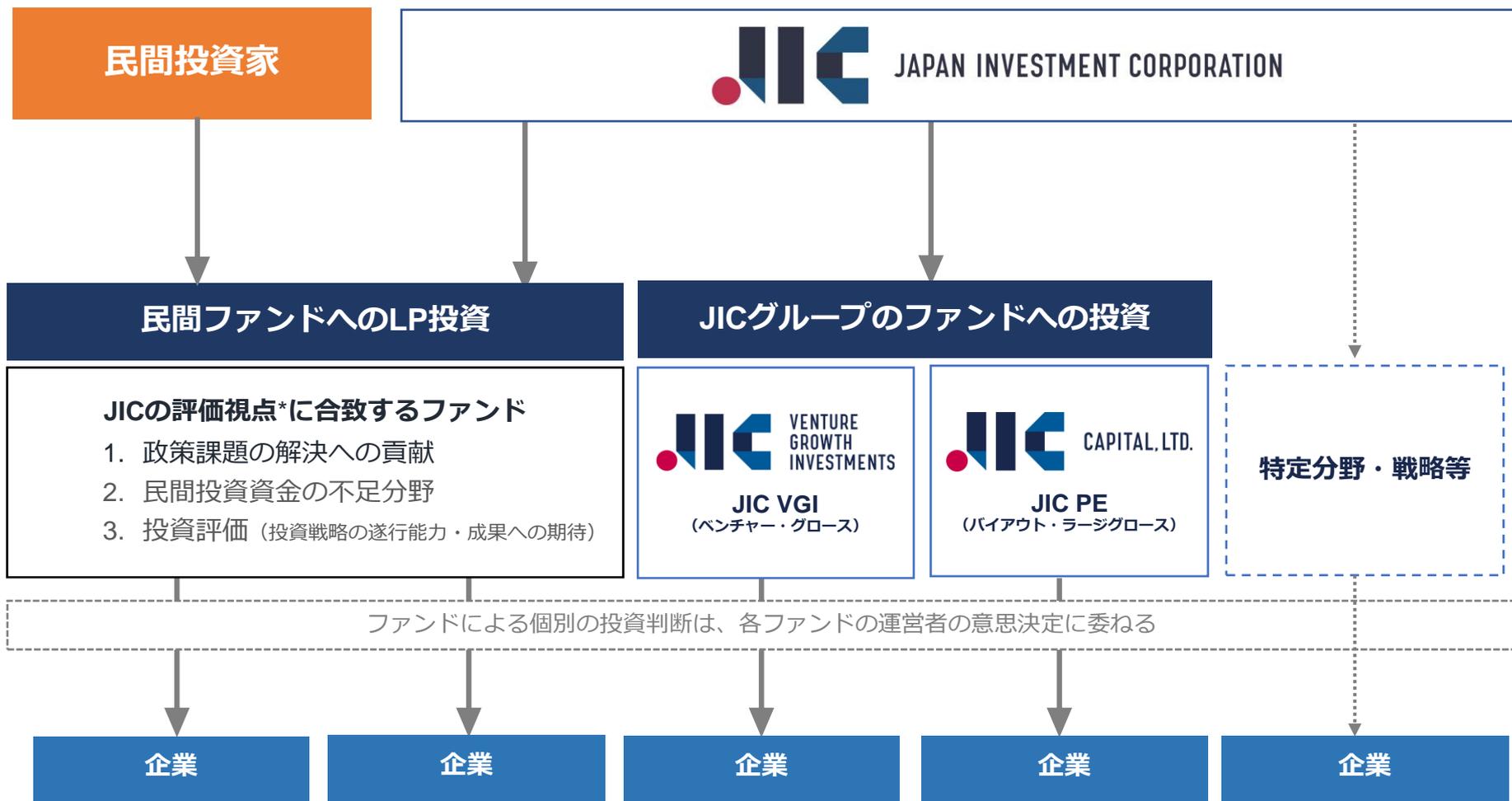
	企業名	概要	調達額 (億円/ シリーズ)	Post- Money	調達日	投資家 (青字：海外投資家, 赤字：VGI)
1	アルム	医療関係者間コミュニケーションアプリ「Join」の提供	233 /-	634	7/1	ディー・エヌ・エー（※ 持ち分法適用会社化）
2	自然電力	太陽光・風力・小水力等の自然エネルギー発電所の発電事業（IPP）	200 /A	-	10/24	Caisse de dépôt et placement du Québec
3	ティアフォー	オープンソース自動運転ソフトウェア	122 /C	908	6/3	SOMPOホールディングス、ヤマハ発動機、株式会社プリチストン
4	Spiber	構造タンパク質素材開発	105 /D	1,457	3/28	The Carlyle Group, 海外需要開拓支援機構、東京センチュリー、Spiberグループ従業員持株会
5	AIメディカルサービス	内視鏡の画像診断支援AIの開発	80 /C	404	5/11	SB Investment Advisers (UK) Limited, グロービス、WiL、インキュベイトファンド
6	Animoca Brands	NFTプラットフォーム	62 /A	744	8/26	株式会社三菱UFJ銀行、Animoca Brands Corporation Limited.
7	SkyDrive	空飛ぶクルマ・物流ドローンの開発	61 /D	287	9/21	Pegasus Tech Ventures, SCSK、関西電力、近鉄グループホールディングス、スズキ、損害保険ジャパン、東京海上ホールディングス、豊田鉄工、日本化薬、日本発条、三井住友信託銀行、三菱UFJ銀行
8	Kyash	ウォレットアプリ、VISAカードの展開	49 /D	336	3/9	Block, Inc., Greyhound Capital, Altos Ventures, Goodwater Capital, Greenspring Associates, Yitu Capital, JPインベストメント、SMBC日興証券、三井住友海上キャピタル、AGキャピタル、ジャフコグループ、SMBCベンチャーキャピタル、W株式会社
9	Rapyuta Robotics	ロボットプラットフォーム開発企業	48 /D	206	3/31	ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク、マーキュリアンベストメント
10	SYNQA	オンライン決済や金融包摂を目的としたブロックチェーンテクノロジーの提供	47 /-	-	4/30	JICベンチャー・グローブ・インベストメンツ
11	LegalForce	契約リスクを制御するソフトウェアの開発	45 /D	809	5/13	SB Investment Advisers (UK) Limited、Sequoia Capital China、ザ・ゴールドマン・サックス・グループ・インク、WiL、みずほキャピタル株式会社、三菱UFJキャピタル株式会社
12	自然電力	太陽光・風力・小水力等の自然エネルギー発電所の発電事業（IPP）	44 /A	399	2/28	JICベンチャー・グローブ・インベストメンツ、シグマクシス・インベストメント
13	ジョーシス	ITデバイス/SaaS統合管理	44 /-	-	9/7	グローバル・ブレイン、ANRI、一般社団法人Yamauchi-No.10 Family Office デジタルホールディングス、WiL
14	Menu	フードデリバリー・テイクアウトアプリ	44 /A	294	5/20	KDDI株式会社
15	dotData, Inc.	AIデータ分析プロセス自動化	40 /A	-	4/27	大塚商会、三井住友銀行、三井住友信託銀行
16	AnyMind Group	D2Cプラットフォーム	40 /-	556	7/15	JICベンチャー・グローブ・インベストメンツ、JPインベストメント、日本グローブキャピタル投資法人、プロトベンチャーズ、三菱UFJキャピタル
17	Chordia Therapeutics	がん領域低分子医薬品を開発	40 /C	150	5/13	日本グローブキャピタル投資法人、東京大学協創プラットフォーム開発、SBIインベストメント、新生キャピタルパートナーズ、日本ベンチャーキャピタル
18	jinjer	バックオフィス業務クラウド	40 /A	259	3/10	Tybourne Capital Management Ltd., SBIホールディングス、NTTドコモ・ベンチャーズ
19	株式会社スプレッド	人工光型植物工場の開発と運営	40 /A	-	8/2	萬世電機株式会社
20	つばめBHB株式会社	小型アンモニア製造装置の開発	40/A	-	7/25	味の素、ユニバーサルマテリアルズインキュベーター、ユニバーサルマテリアルズインキュベーター、日本郵船、株式会社みらい創造機構、出光興産、株式会社INPEX、山九、西日本プラント工業、DBJ、SMTB、i-nest capital

(出所) INITIAL: 2022年11月時点集計 ※ #2と#12 は実質同一案件

Appendix:

資料 2 JICの投資戦略

- JIC本体は、原則、ファンドへの投資を行い、JICグループのJIC VGI、JIC Capitalが企業等に対する投資を行う体制。



*上記視点に加えて、募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

1 産業競争力強化に関する**政策課題の解決に貢献**する投資戦略*であること

*投資戦略：投資手法、投資ステージ、対象セクター、対象地域等

2 **民間の投資資金が不足**している分野であること

3 運用者に投資戦略の遂行能力があり成果を期待できること（一般の**投資評価**）

注：上記基準に加え、ファンドの募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

- ファンドの投資戦略（投資手法、対象セクター、ステージ、対象地域等）について、産業競争力の強化に関する**政策課題の解決に貢献することが期待できるか**を考慮する。
- 産業競争力強化法に基づく投資基準※に従って、以下の**4つの重点投資分野**に対し投資。これらの分野を中心に、JICにおける調査分析や政府との対話等を通じ、対象とする政策課題や分野を検討する。

※「株式会社産業革新投資機構投資基準」（平成三十年経済産業省告示第百九十四号）

重点投資分野



Society
5.0

Society5.0に向けた 新規事業の創造の推進

事業者にとってや不確実性が高い非連続的な成長が必要であり、長期かつ大規模なリスクマネー供給を必要とする新規事業の創造に係る事業分野を支援



ユニコーンベンチャー の創出

グローバルな経済圏において競争力をもって持続的に成長することを目標とするユニコーンベンチャーを創出



地方に眠る 将来性ある技術の活用

高い収益が期待できる技術力が多数あるにもかかわらず十分に活用されていない地方の大学発ベンチャー等の資金需要に対応



産業や組織の枠を 超えた事業再編の促進

国際競争力を持ちうる事業分野において、オープンイノベーションに向けた大胆な事業再編を通じて産業競争力の強化を支援

- ①日本市場で民間投資資金が不足している分野（投資対象セクター、ステージ、投資手法等）であるか、②マクロの経済情勢、市場環境の悪化等により民間のファンド等からの資金が縮小している状況にあるか、等を調査・分析することで、民間の投資資金の供給状況を考慮する。

1. 民間の投資資金が不足している分野（対象セクター、ステージ、投資手法等）

- 投資成果の実現までに長い期間を要したり、大規模な資金を必要とするセクターやステージ
- 有望な技術・事業を成長させるための民間の投資資金が十分に供給されにくいセクターや地域
- 日本市場では先例が少なく、確立していない投資戦略や投資手法 等

* これらの状況を分析し、対象セクター、ステージ、対象地域等でマッピング
* 新たな投資戦略や投資手法については、欧米等の状況との比較検討等を実施

2. 市場環境の悪化等による民間の投資資金の縮小

- マクロの経済情勢、市場環境の悪化等を踏まえた、民間投資家の投資資金の縮小の状況
- 民間資金の補完により、リスクマネーの循環を促進する効果が発現する蓋然性

- ・ ファンド運用者が**投資戦略の遂行能力があり、リターンをはじめとする成果を期待できるか**、投資戦略、運用体制、投資プロセス、トラックレコード、ポートフォリオ等を分析し、評価する。

<投資評価の項目例>

1. 投資戦略	投資コンセプト・テーマ、投資手法、対象セクター、ステージ、対象地域、リターン・リスク水準等
2. 投資体制	GPの投資実績、ネットワーク、投資チームの構成・役割分担・インセンティブ設計、投資チーム外の支援体制、他の事業等とのコンフリクト（利益相反）の有無等
3. 投資プロセス	ソーシング、デューデリジェンス・意思決定プロセス（投資委員会の運営）、投資先支援、EXIT状況等
4. トラックレコード	既存ファンドにおける投資実績、投資済み案件の成長見込み、過去の失敗案件の分析等
5. ポートフォリオ	投資戦略との整合性、分散、運用キャパシティ等
6. 業務遂行体制	ミドルバック業務のオペレーション体制、コンプライアンス体制・内部統制、ITシステム・BCP、ESG/SDGsに関する取組 等
7. 契約条件等	ファンドの経済条件（GPの管理報酬、GP・LP間の利益分配等）、ファンド存続期間やストラクチャー、キーパーソン、ファンドのガバナンス（利益相反事象の発生防止、ポートフォリオの分散の確保等）、情報開示・レポーティング対応（四半期運用報告、公正価値評価等）
8. 外部からの評価	

Appendix:

資料3 政策課題（重点投資テーマ）

① Society5.0に向けた投資

- AI、IoT、ロボットといった第四次産業革命に関する技術の社会実装の他、バイオ・創薬・ヘルスケア、モビリティ、宇宙、素材、電子デバイス等の国際競争力を持ちうる事業分野に対する、長期かつ大規模なリスクマネーを供給する。

ディープテック

- ✓ ①デジタル技術も活用した、フィジカル技術ベースの非連続なイノベーションに基づき、②社会課題の解決に大きなインパクトをもたらす可能性を有する技術で、③その研究開発段階から上市までに長い期間と相当程度の資金を要するディープテックの研究開発・社会実装を支援する。



ライフサイエンス・バイオテック

- ✓ スタートアップと製薬会社とのオープンイノベーションによる革新的新薬の開発をはじめ、医薬品、医療機器、ヘルステック、バイオテクノロジーなど、ライフサイエンス分野のイノベーションを支援する。



カーボンニュートラル・クライメートテック

- ✓ クライメートテック領域の革新的イノベーションや新たなビジネスの創出を支援し、地球温暖化対策を経済成長に繋げるとともに、世界の脱炭素化に貢献する。



オープンイノベーション

- ✓ 米国、東南アジア、インド、イスラエル等の先進的な技術等を有するスタートアップと日本企業との事業提携等によるオープンイノベーションを促進し、革新的なビジネスの創出を支援する。



②ユニコーン創出に向けた投資

- グローバルな経済圏において競争力をもって持続的に成長することを目指す**ユニコーンの創出**に対する長期かつ大規模なリスクマネーを供給する。

プレシード／シード

- ✓ 将来的にユニコーンに成長する可能性がある有望なスタートアップの数を増やしていくため、プレシード／シードステージのスタートアップを支援し、日本のスタートアップ・エコシステムを下支えする。



グロース

- ✓ 日本市場において、民間の投資資金が不足している、グロースステージにあるスタートアップが、ユニコーンを目指し、事業を十分に成長させるための大規模なリスクマネーを供給する。



ゴー・グローバル

- ✓ ユニコーンやそれを超える巨額の企業価値を有するスタートアップへの成長を志向する多くのスタートアップにとって重要となる、グローバル市場への進出を支援する（海外拠点を持つVCの支援やグローバルに活動するVCの呼び込み）。



ダイレクト・セカンダリー／Continuation Fund

- ✓ ユニコーンを目指すスタートアップが、出資を受けたファンドの存続期限により、十分な成長を制約されることのないよう、日本市場におけるセカンダリー市場の発展を支援する。



③ 地方発イノベーションのための投資

- 事業化により高い収益を期待できる技術を有するにもかかわらず、事業としての成長の機会を十分に与えられていない、**地方の大学発ベンチャー**等の資金需要に対応するためのリスクマネーを供給する。

産学連携

- ✓ 日本市場では、多くのVCが東京を中心に投資活動を行っていることから、民間の投資資金が投下されにくい、地方大学等にある優れた技術の事業化を目指す研究開発型スタートアップ等を支援し、日本各地のスタートアップ・エコシステムの醸成を支援する。



④ 産業再編に向けた投資

- 産業構造、国際的な競争条件の急激な変化に対応するため、日本が国際競争力を持ちうる事業分野における、既存企業による**産業や組織の枠を超えた大胆な事業再編**を促すためのリスクマネーを供給する。

カーブアウト・ ロールアップ

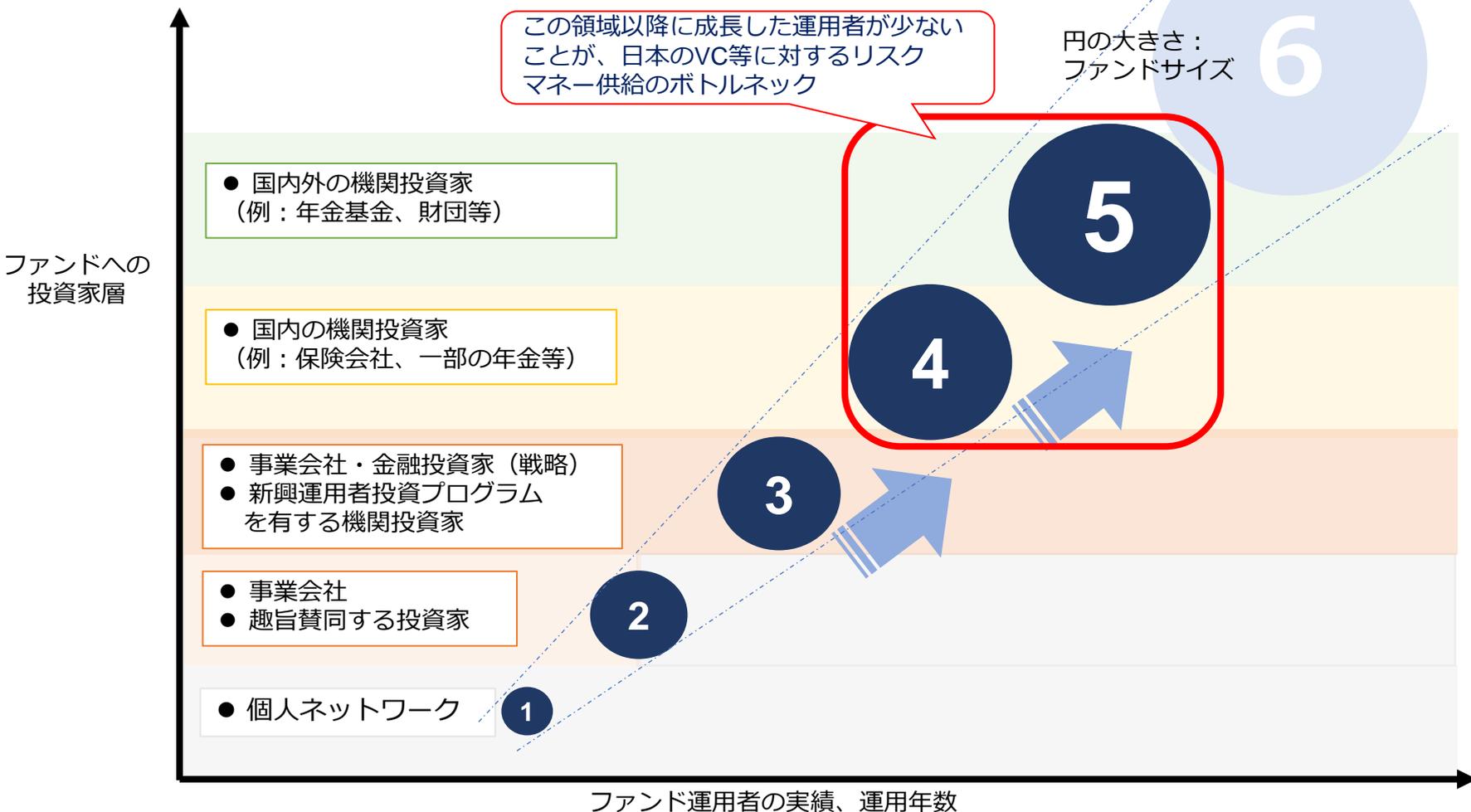
- ✓ 日本市場において、民間の投資資金が不足している、製造業等を対象としたカーブアウト・ロールアップ戦略をはじめ、国際競争力を持ちうる事業分野における、**産業や組織の枠を超えた大胆な事業再編**を支援する。



Appendix:

資料4 スタートアップエコシステムの課題 －機関投資家資金受け皿としてのVC

- 日本のファンド（特にVC）は、欧米に比べて、**年金等の機関投資家からの資金受託が少なく**、中長期的な成長を支えるリスクマネーの確保の観点から大きな課題。
- リスクマネーを仲介する役割を担う、日本のファンド運用者が、**国内外の機関投資家から資金受託できるよう、成長を支援**。



課題

国内外の機関投資家の資金受託者（ファンド運用者）に対する期待

<トラックレコード>

- Exit実績
- グローバルTop1/4に比する良好なトラックレコード
- ネットベースで評価可能な一定の運用期間が経過したファンド実績
- ファンドの強みを示す象徴的な案件への投資実績 等

<ガバナンス>

- 組織化されたファンド運営体制
- 世代交代と安定した組織運営
- 機関投資家が求める内部管理
- 海外機関投資家に対応できるIR
(DD対応、レポーティング、組合員集会運営等)
- 適切な利益相反管理、諮問委員会運営
- グローバルスタンダードに則った組合契約 等

JICによる 投資・支援

- ファンド規模の拡大（実質的に次号募集までの時間的余裕ができる）
 - ✓ より多くの案件への投資実績の蓄積、前号ファンド案件のEXITの実現
 - ✓ 管理報酬増によるチームの拡充
- 機関投資家の視点でのファンド運営全般（ファンド戦略、運用体制等）に対する助言
 - ✓ 戦略・実績等に応じたファンドサイズと体制整備
 - ✓ 組織・業務プロセスの整備
 - ✓ DD・レポーティング等の体制整備
 - ✓ ファンド組合契約の主要条件の整備
- 各種ネットワークへの仲介や情報提供等
 - ✓ 機関投資家
 - ✓ JICグループのファンド、投資先ファンド等
 - ✓ 政府、公的機関（規制・制度、公的支援措置等に関する情報収集等）

目指す成果

ファンド運用者の成長・市場全体でのユニバーズの充実

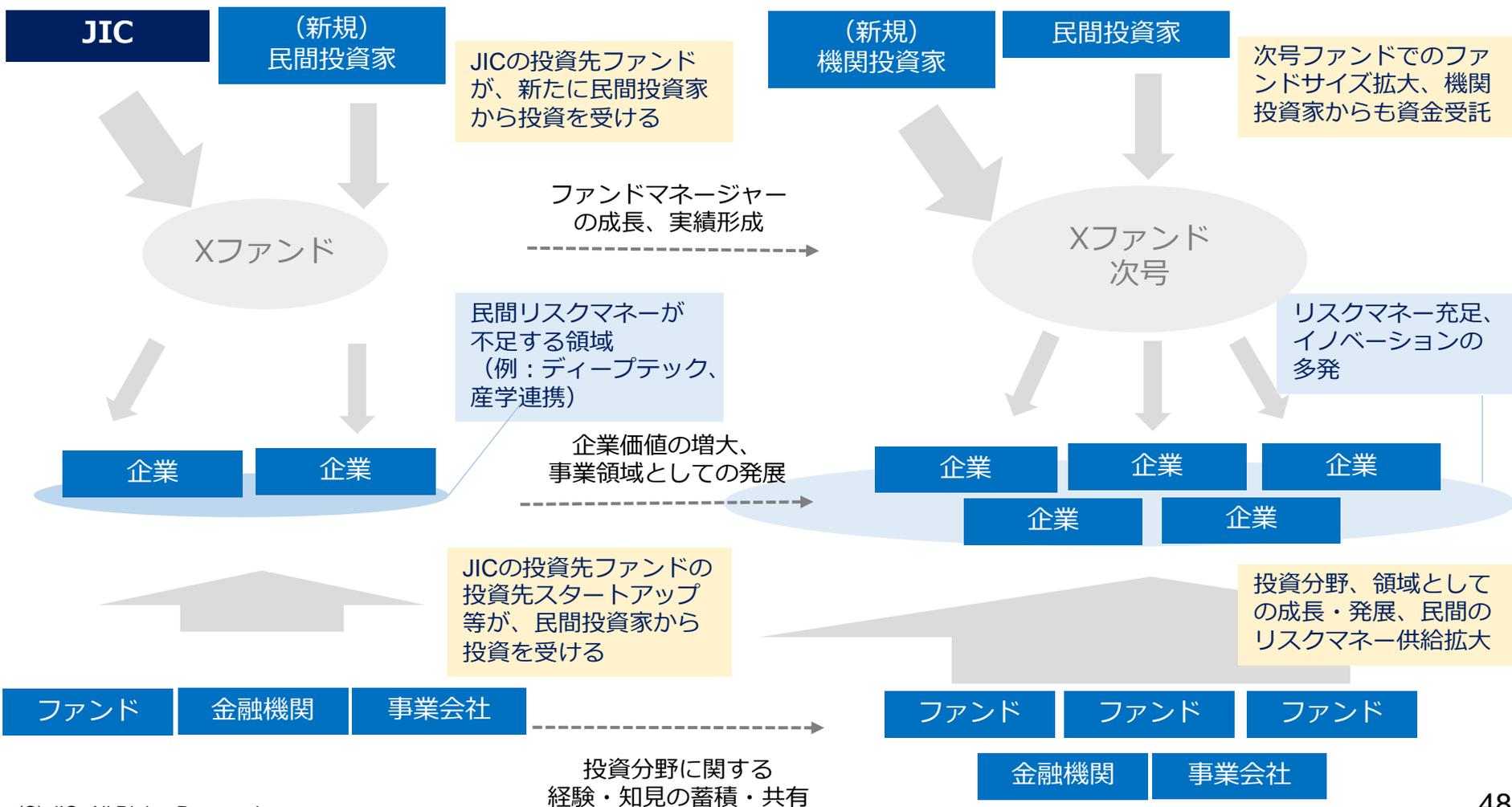
- 次号ファンドでのファンドサイズの拡大、機関投資家からのLP投資の拡大
- 機関投資家の投資対象となり得る、投資チームの増加

ファンド投資の「呼び水」効果

- 民間の投資資金への「呼び水」効果は、短期では、①JICの投資先ファンド、②JICの投資先ファンドが投資する企業（スタートアップ等）への発現を企図。中長期では、リスクマネーの好循環を支えるエコシステムが發展し、自主的に機能する姿を目指す。

短期的な効果

中・長期的な効果



Appendix:

資料5 LP投資について

- **ファンドサイズを適正な規模に保つことは、リターンを期待する上で重要な要素。**
- 一方で**国内VC市場では、以下のような課題**を認識。
 - ✓ 国内VCに出資するLP投資家が少なく、**十分に資金が集まらない（ファンドサイズが大きくなれない）**という制約が存在。
 - **フォローオン投資できないファンドが多く**、その結果、LPとの利害のコンフリクトが生じやすいファンドまたぎで(異なるファンドから)投資せざるを得ない事態に。
 - ⇒ JICとしては、過去ファンドのフォローオン投資は、別募集することを推奨。
 - ✓ **スタートアップの質が向上する中、二桁億から三桁億円の調達も増加**しつつあり、**従来のファンドサイズでは、VCとして適切な対応が難しい**ことも。
 - ✓ **シード・アーリー期からリードVCが継続してフォローオン投資を行うことができれば、グロースステージで海外VCやクロスオーバーファンドからの資金調達が円滑**になり得る。
- JICは以下を精査し、**適正と考えられるファンドサイズを評価し、ファンド上限の設定をGPと交渉**。

適正ファンド サイズ検討の 視点

- ① 運用者の過去投資ペース
- ② 投資対象市場の環境、ディールフロー状況
- ③ 過去ファンドの初回投資、フォローオン投資への配分
- ④ 募集ファンドの投資計画、新規投資の予定件数、新規投資・フォローオン投資金額の見込み
- ⑤ 投資計画の実行、過去ファンドの投資先の育成・Exitのために必要となる人的リソースに関する経年推移計画
- ⑥ 投資計画の遂行に足りないスキル、経験があれば補充の方法
- ⑦ シニアメンバーによる人材の採用・育成能力

● 民業補完の視点

- JICが適正と考えるファンドサイズに対し、民間LP資金の募集状況、見込みを勘案し、JICのLP投資により、**他の投資意向を持つ民間LP投資家が排除される状況は回避。**
- GPに一定の実績があり、**民間LPからの募集が相応に見込めるものの募集終了までに長期間を要する場合、初回クローズ段階で、民間資金の「呼び水」となるべく出資約束予定額の一部をコミット。最終クローズ段階で、適正なファンドサイズまで募集できていない場合、その時点の状況を踏まえ、追加の出資約束を行うことがあり得る。**

● 最小コミット額

- **原則、30億円**

● 最大コミット割合

- **原則、中小機構によるLP投資額と合算して、LP総額の50%以下**
- **LP総額の50%を超える場合、公的資金がLPの過半を占めることに鑑み、JICとして、GPに対するガバナンスを強化。具体的には、GP会社に対するモニタリング（管理報酬の使途の確認、取締役会の議事録の確認等）を実施。**

● LP投資家としてのリードポジション

- 原則、アドバイザリーボードに参加（必要となるコミット額を検討）。
- 組合契約書の修正やファンドの運営体制、ガバナンスやレポーティングについても改善の要請、サポートを行うことから、**多くの場合、最大LPとなることを検討。**

Appendix :

資料6 JICの投資ファンド一覧

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
①	2020年 7月8日	JICベンチャー・ グロース・ファンド1号 投資事業有限責任組合	1,200億円	ベンチャー・グロース領域に十分なリスクマネーを供給し、呼び水効果、業界連携、オープンイノベーション促進による日本の国際競争力向上、産業及び社会の課題解決を企図。	✓	✓	✓	
②	2020年 9月9日	JIC PEファンド1号 投資事業有限責任組合	2,000億円	大規模・長期・中立的なリスクマネー供給を通じて、Society 5.0の実現に向けた新規事業・新産業の創造、国内産業の国際競争力強化、業界の再編を企図。	✓			✓
③		JIC PE共同投資ファンド 1号投資事業有限責任組合	9,000億円 <small>(2022年10月27日 変更決定)</small>	国際競争力強化に向けた大規模な事業再編に際して、JICとの共同投資を実施。	✓			✓
④	2020年 12月8日	Beyond Next Ventures2号 投資事業有限責任組合	40億円	医療・ヘルスケア分野をはじめ大学・研究機関・企業の有する優れた技術シーズの事業化に注力。産学連携による技術系スタートアップへのインキュベーション投資を実施。	✓	✓	✓	

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑤	2021年 2月26日	Catalys Pacific Fund, LP	30百万 米ドル	国内製薬会社や大学等から化合物を導入し、グローバルでの開発を実施。創薬スタートアップとの協業によるオープンイノベーション創出についての知見共有や人材育成により創薬エコシステム醸成に寄与。	✓	✓		
⑥	2021年 4月19日	ANRI 4号 投資事業有限責任 組合	29.5億円	ディープテック領域やインターネットとディープテックの融合領域にリスクマネーを供給。研究開発型スタートアップに対する人材面での支援を行うほか、女性キャピタリストや女性起業家の育成を通じたエコシステムのダイバーシティ推進も企図。	✓	✓		
⑦	2021年 5月7日	みやこ京大 イノベーション2号 投資事業有限責任 組合	41億円	アカデミア発ディープテック・スタートアップにリスクマネーを供給。Society5.0の実現に向けた高度な専門技術の開発や社会実装を支援。各地の大学との連携により、地方に眠る将来性ある技術の活用と技術系スタートアップのエコシステム醸成に貢献。	✓	✓	✓	
⑧	2021年 12月3日	DRONE FUND3号 投資事業有限責任 組合	30億円	世界でも珍しいドローン・エアモビリティ特化型 VC。ハード・ソフト両面に加え、ドローン関連サービスや、ドローンに応用可能なテクノロジーの開発・提供を支援。地方発の案件発掘にも注力。	✓	✓	✓	

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑨	2021年 12月13日	UC ヘルスケア・ プロバイダー 共同投資事業有限 責任組合	240億円	地域の医療機関やヘルスケア事業者に対する支援を行うとともに、各関係機関の連携を図り、ヘルスケア業界における生産性の向上と、質の高いヘルスケアの効率的な提供に寄与。国内初の総合ヘルスケア・プロバイダーの創出を目指す。	✓			✓
⑩	2021年 12月24日	Sozo Ventures III, L.P.	50百万 米ドル	北米の有カスタートアップに対する投資と、日本の事業会社に対する事業提携の機会の提供等を主軸とした投資戦略。米国内外のスタートアップ、スタートアップエコシステム、アカデミアに深いつながりを持ち、スタートアップの国際展開支援に取り組む。	✓			
⑪	2022年 1月26日	ANRI-GREEN 1号 投資事業有限責任 組合	30億円	先行投資と長期の運用を伴う、Climate Tech領域のディープテック・スタートアップへ投資。同領域における民間投資資金の流入や、産業の育成、アカデミア発のスタートアップへの支援を通じた研究開発や社会実装の推進を企図。	✓	✓		
⑫	2022年 1月31日	Genesia Venture Fund 3号投資事業 有限責任組合	55億円	国内の独立系VCとして、プレシード/シード期のスタートアップに積極的に投資。東南アジアの日系企業と現地スタートアップとの提携支援等に取り組む数少ないファンドの一つ。現地のスタートアップエコシステムに参入し、業務提携や資本提携を締結させるなどの実績を有する。	✓	✓		

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑬	2022年 3月7日	WiL Ventures III, L.P.	100百万 米ドル	東京と米国シリコンバレーに拠点を有し、国内外の有望なスタートアップに投資。国内事業会社等への啓蒙・支援活動を通じてオープンイノベーションの促進を図ると共に、海外の拠点・ネットワークを活用し、国内事業会社等と海外スタートアップとの事業提携等の創出を図る。また、国内投資先に対する海外展開支援等により、日本発ユニコーン企業の創出にも取り組む。	✓	✓		
⑭	2022年 4月5日	IAパートナーズ1号 投資事業有限責任 組合	100億円	主にエレクトロニクス、化学、ヘルスケア、物流および消費財等の中堅企業を対象としたカーブアウト・ロールアップを主軸とした投資戦略。日本が国際競争力を持ちうる事業分野における、既存企業による産業や組織の枠を超えた事業再編に取り組む。				✓
⑮	2022年 4月15日	QB第二号 投資事業有限責任 組合	25億円	九州を中心として、九州大学ほかの地方大学との関係を築き、連携を強化することで、地方に眠る技術シーズの掘り起こしに積極的に取り組み、地方大学発の技術系スタートアップに対する投資を実施。	✓	✓	✓	

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑬	2022年 5月11日	DIMENSION2号 投資事業有限責任組合	30億円	デジタルビジネス、ヘルスケア、ディープテック等の領域のスタートアップに投資。MBOやスピンアウトによるスタートアップの設立支援など、オープンイノベーションの促進、新規事業の創造にも取り組む。	✓	✓		
⑰	2022年 6月10日	Apricot Venture Fund 2号 投資事業有限責任組合	20億円	プレシード/シード期のスタートアップへの投資に注力し、新規事業にチャレンジする起業家を積極的に支援。デジタル技術を中心に、Society 5.0 に向けた新規事業・新産業の創造に資する分野への投資にも取り組む。	✓	✓		
⑱	2022年 7月5日	グロービス7号ファンド 投資事業有限責任組合	80億円	企業価値として数千億から1兆円規模に成長する、日本を代表するスタートアップの輩出を目標とした投資戦略を掲げ、その中で、日本発のグローバルユニコーン創出を目指す。また、グローバルユニコーンを生み出す国内VCのロールモデルを目指す。	✓	✓		
⑲		グロービス7号Sファン ド投資事業有限責任組合						

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑳	2022年 7月6日	Catalys Pacific Fund II, LP	30百万 米ドル	国内製薬会社等から有望な化合物を導出し、グローバルで開発を推進。創薬スタートアップとの協業によるオープンイノベーション創出に関する知見共有・人材育成を通じ、創薬スタートアップ・エコシステム醸成に寄与。	✓	✓		
㉑	2022年 7月20日	ANRI 5号投資事業 有限責任組合	50億円	ディープテック領域や、デジタル技術によりサイバー空間とフィジカル空間の融合を促進する領域にリスクマネーを供給。プレシード/シード期の研究開発型スタートアップに対する人材面の支援を行うほか、女性のキャピタリスト・起業家の育成を通じたエコシステムのダイバーシティ推進も企図。	✓	✓		
㉒	2022年 8月23日	WUV 1号投資事業 有限責任組合	30億円	アカデミア発ディープテック・スタートアップの支援を通じて、大学等有する技術シーズの社会実装を促す。海外の大学、研究機関やVCとの連携などにより、投資先スタートアップのグローバルでの研究開発や事業展開を推進。	✓	✓		

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
⑳	2022年 9月16日	EEI 5号 イノベーション &インパクト投 資事業有限責任 組合	30億円	環境エネルギー特化型ファンドとして Energy Transition、Mobility & Transportation 及び Smart Societyの3つ の投資領域を設定し、当該領域で脱炭素 を中心に持続可能な社会の実現に貢献す る革新的なビジネスモデルや技術を有す るスタートアップに対して投資を行う。	✓	✓		
㉑	2022年 10月12日	DNX Partners Japan IV, LP	60億円	日本と米国に拠点を持ち、SaaSモデル 導入によるディープテックの社会実装等、 Society 5.0に向けたディープテック領域 の新規事業の創造を企図。また、米国市 場の知見を活かした、国内スタートアッ プの海外進出支援を推進。	✓	✓		
㉒		DNX Partners Annex Japan III, LP	30億円	既存ファンドの投資先のうち、有望なス タートアップに対してフォローオン投資 を行い、新規上場前の更なる成長を促す。 海外進出支援を推進しつつ、SaaS領域 を中心としたユニコーン創出を目指す。	✓	✓		

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

No.	公表日	ファンド名	JIC 投資額*	ファンド概要	Society 5.0	ユニ コーン	地方の 技術	事業 再編
②⑥	2022年 12月9日	Spiral Capital Japan Fund 2号 投資事業有限責任 組合	30億円	ユニコーンの創出を目指し、フィンテック・ヘルスケア・スマートインフラを重点投資セクターとしつつ、ディープテック領域にも投資を行う。また、投資先スタートアップと国内事業会社等によるオープンイノベーションを推進。	✓	✓		
②⑦	2022年 12月15日	KUSABI 1号投資事業 有限責任組合	26億円	独自のアクセラレーションプログラムによるソーシングなどを通じ、プレシード/シード期からの垂直統合型支援により「ユニコーン」を含めた1兆円企業の輩出を目指す。	✓	✓		
②⑧	2022年 12月16日	JIC ベンチャー・ グロース・ファンド 2号投資事業有限責任 組合	2,000 億円	グロースステージのスタートアップへの支援を主戦略とする1号ファンドの投資戦略を踏襲しつつ、ディープテック・ライフサイエンス領域のアーリーステージ以降のスタートアップへの支援を強化。ユニコーン創出・Society 5.0実現を企図。	✓	✓	✓	

*コミットメント額

(2022年12月16日時点)

注意事項

- 当資料は、JICグループの投資活動を説明するために作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は、特定の金融商品等の取得・勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料に掲載されている情報は、当資料の作成日時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料の作成には万全を期していますが、利用者がこの情報を用いて行う一切の行為（この情報を編集・加工した情報を利用することを含みます）について、当社は何ら責任を負うものではありません。
- 当資料に掲載されている内容の著作権は、当資料に記載された関係者ないし当社に帰属しており、目的を問わず、無断で複製、引用、転載等を行うことはできません。